

2025/26 シーズンに向けたインフルエンザワクチン 接種に関する考え方とトピックス

● 2025/26 シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの接種を強く推奨します

2024/25シーズン累積のインフルエンザ推計受診者数は約1,037.5万人であり、定点当たりの受診患者数が第52週は64.39となりました^{1) 2)}。この報告数は、感染症法にもとづく現行の報告体制となった1999年以降最大であり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前にインフルエンザの大きな流行が観察された2017/18シーズンのピークである54.33（2018年第5週）、2018/19シーズンのピークである57.09（2019年第4週）を上回りました²⁾。急激な患者数の増加で全国の医療機関が対応に迫られたのは記憶に新しいところです。この原因の一つとして、ワクチン接種率の低下が指摘されています³⁾。

2024/25（令和6年）シーズンはインフルエンザワクチン使用量が2,307万本（供給量 2,722万本）と2010/11（平成22年）シーズン以降、最も少ない使用量となり³⁾、65歳以上での接種率は54.6%となりました。2025/26シーズンはより積極的なインフルエンザワクチン接種が必要と考えられます。

世界的には2024/25シーズンの成人におけるインフルエンザワクチン接種率は、米国で66.4%と前シーズンと比較して0.4%減にとどまりましたが⁴⁾、すべての年齢層において入院数や死亡者数など、最も重篤とされた2017/18シーズンを上回り、この10年で最悪の状況であったとされています⁵⁾。それでもインフルエンザワクチンは65歳以上の高齢者を中心に24万人の入院を防いだと推定されており、ワクチンの重要性が指摘されています⁵⁾。

オーストラリアでは、65歳以上でのインフルエンザワクチン接種率は60.1%であり、同じく昨シーズンと比べて0.3%程度の減少にとどまりましたが、2025年最初の6か月のインフルエンザ死亡数は2024年の同時期と比べて10.7%増となり、改めて2024/25シーズンにおけるインフルエンザの猛威が示されています^{6, 7)}。

2024/25シーズンのインフルエンザワクチン効果は、米国においては全体で56%⁸⁾、欧州でも32～56%⁹⁾、日本の小児でも57～73%¹⁰⁾と良好でした。

今シーズンも高齢者、小児、施設の入所者、介護者、そして医療従事者にはインフルエンザワクチンを接種していただきたいと考えています。2024/25シーズンを前にB/山形系統が世界的に検出されていない状況で、WHOは4価ではなく3価を推奨する方向を示し、米国では2024/25シーズンから3価ワクチンのみの使用となりました⁵⁾。わが国でも2025/26シーズンからの3価への変更が正式に決定しました³⁾。

わが国では 2025/26シーズンに向けて、

A／ビクトリア／4897／2022 (IVR-238) (H1N1)

A／パース／722／2024 (IVR-262) (H3N2)

B／オーストリア／1359417／2021 (BVR-26) (ビクトリア系統)

の使用を決定しました³⁾。

- **新規ワクチン（経鼻弱毒生ワクチン、高用量不活化ワクチン、mRNA ワクチンなど）への期待**

わが国でも経鼻弱毒生インフルエンザワクチン (LAIV)（商品名フルミスト[®]点鼻液）が、2024年9月26日に発売されました。適応年齢については2歳から19歳未満で、接種回数は1回の3価ワクチンで¹¹⁾、2024/25シーズンには131万本が供給されました³⁾。

また、2024年12月27日に高用量ワクチン（商品名エフルエルダ[®]）の製造販売が承認され、適応は60歳以上の人となっています¹²⁾。2026/27シーズン以降の臨床現場での使用が期待されます。

さらに海外ではmRNAベースの季節性インフルエンザワクチン¹³⁾ 及び季節性インフルエンザと新型コロナウイルスの混合ワクチンの開発¹⁴⁾ がPhase3まで進んでいます。

- **高齢者や重症化リスク因子を持つ方へは肺炎球菌ワクチンや新型コロナワクチン、RSV ワクチンの積極的な接種も強く推奨します。**

高齢者やリスク因子を有する方にはインフルエンザ罹患後の続発性細菌性肺炎の予防も重要です。システマティックレビューおよびメタ解析では、インフルエンザワクチン接種群では抗菌薬処方数が有意に減少し (Rate of Means 0.71)、さらに抗菌薬投与日数も有意に短縮されること (Risk Ratio 0.63) が報告されており、薬剤耐性 (AMR) 対策の一つとしてもワクチン接種率の向上が期待されます¹⁵⁾。

肺炎球菌が代表的な肺炎の原因菌であり、肺炎球菌ワクチンには23価莢膜多糖体ワクチン (PPSV23)、13価結合型ワクチン (PCV13) /15価結合型ワクチン (PCV15)、そして2024年に加わった20価結合型ワクチン (PCV20) の3種類がありましたが¹⁶⁻¹⁸⁾、21 価結合型ワクチン (PCV21:商品名キャップボックス[®]筋注シリンジ) が 2025年8月8日に製造承認を取得しました¹⁹⁾。PCV21は成人用に特化したワクチンと位置づけられ、これまでの肺炎球菌ワクチンより広い血清カバー率が示唆されています²⁰⁾。

新型コロナワクチンに関しては、2024年4月1日からは定期接種 B 類としてa) 65歳

以上の者及び b)60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される者等が対象となりました²¹⁾。2024年10月からインフルエンザワクチン同様に定期接種が本格的に開始となりましたが、接種率はすべて高齢者に接種されたとしても22%程度（医療機関への納入量786万回²²⁾ /65歳以上人口3624.3万人²³⁾）と推定され、さらに接種率を高める必要があります。高齢者ではインフルエンザワクチンと新型コロナワクチンの同時接種を積極的に推奨します。

さらに、高齢者では Respiratory syncytial ウイルス (RSV) ワクチン接種も継続して推奨し、2種類のRSVワクチンがわが国でも使用可能です^{24, 25)}。

【文献】

- 1) 国立感染症研究所 インフルエンザ流行レベルマップ 2025年第14週（3月31日～4月6日） 2025年8月11日現在 <https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/020/flu-map.html>
- 2) IDWR 2024年第52号<注目すべき感染症> インフルエンザ <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2024/52/article/index.html>
- 3) 第3回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会資料4（2025年5月28日） <https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001494610.pdf>
- 4) CDC: FluVax view. <https://www.cdc.gov/fluvoxview/dashboard/adult-coverage.html>
- 5) 2024-2025 Influenza Season News <https://www.cdc.gov/acip/downloads/slides-2025-06-25-26/03-dugan-influenza-508.pdf>
- 6) NCIRS: All persons: 2025 (YTD) influenza vaccination coverage by age group and state/territory. <https://ncirs.org.au/influenza-vaccination-coverage-data/all-persons-2025-ytd-influenza-vaccination-coverage-age-group>
- 7) Interim Australian Centre for Disease Control. Australian Respiratory Surveillance Report-14 July to 27 July. 2025. <https://www.health.gov.au/sites/default/files/2025-08/australian-respiratory-surveillance-report-14-july-to-27-july-2025.pdf>
- 8) CDC: CDC Seasonal Flu Vaccine Effectiveness Studies. <https://www.cdc.gov/flu-vaccines-work/php/effectiveness-studies/index.html>

- 9) Rose AM, Lucaccioni H, Marsh K, Kirsebom F, Whitaker H, Emborg HD, *et al.*: Interim 2024/25 influenza vaccine effectiveness: eight European studies, September 2024 to January 2025. *Euro Surveill.* 2025;30(7):2500102. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2025.30.7.2500102.
- 10) Shinjoh M, Tamura K, Yamaguchi Y, Fukushima H, Kuremoto N, Tezuka M, *et al.*: Influenza vaccination in Japanese children, 2024/25: Effectiveness of inactivated vaccine and limited use of newly introduced live-attenuated vaccine. *Vaccine.* 2025;61:127429. doi: 10.1016/j.vaccine.2025.127429
- 11) 第一三共株式会社. フルミスト点鼻液 添付文書.
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/ResultDataSetPDF/430574_631370AR1026_1_05
- 12) サノフィ株式会社. エフルエルダ筋注 添付文書.
https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/631341RG1020_1_01/
- 13) Moderna Announces Positive Phase 3 Results for Seasonal Influenza Vaccine. June 30, 2025. <https://feeds.issuereirect.com/news-release.html?newsid=4899326521164266&symbol=MRNA>
- 14) Moderna Announces Positive Phase 3 Data for Combination Vaccine Against Influenza and COVID-19. June 10, 2024.
<https://feeds.issuereirect.com/news-release.html?newsid=6378639763872681&symbol=MRNA>
- 15) van Heuvel L, Paget J, Dückers M, Caini S. The impact of influenza and pneumococcal vaccination on antibiotic use: an updated systematic review and meta-analysis. *Antimicrob Resist Infect Control.* 2023;12(1):70. doi:10.1186/s13756-023-01272-6.
- 16) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会: 「65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方 (第 6 版)」 (2024 年 9 月 6 日)
https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=56
- 17) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会: 「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」 (第2版) (2023年9月11日)
<https://www.jrs.or.jp/activities/guidelines/statement/20210521172047.html>
- 18) ファイザー株式会社. プレベナー20 水性懸濁注 添付文書
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/672212_631140LC1023_1_04#HDR_ContraIndications

- 19) MSD製薬ニュースルーム. <https://www.msd.co.jp/news/product-news-20250808/>
- 20) 小児・成人の侵襲性肺炎球菌感染症の疫学情報
<https://ipd-information.com/adult/overview/>
- 21) 厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課. 令和6年度以降の新型コロナワクチンの接種について. 2023年11月22日
<https://www.mhlw.go.jp/content/001176048.pdf>
- 22) 第217回国会 参議院予算委員会 第6号 P7 (令和7年3月12日) 鷲見学政府参考人発言.
<https://kokkai.ndl.go.jp/#/detail?minId=121715261X00620250312¤t=1>.
[Accessed Aug 15, 2025.](#)
- 23) 総務省. 人口推計 2024 年(令和6年)10月1日現在.
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/pdf/2024np.pdf>. Accessed Aug 15, 2025.
- 24) グラクソ・スミスクライン株式会社. アレックスビー添付文書
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/340278_631341NE1021_1_05#HDR_ContraIndications
- 25) ファイザー株式会社. アブリスボ筋注用添付文書
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/672212_631350AE1028_1_05#HDR_ContraIndications

2025年10月1日

一般社団法人日本感染症学会 インフルエンザ委員会

青木洋介、石田 直、國島広之、佐藤晶論、新庄正宜、関 雅文、田村大輔、永井英明、
藤田次郎、三鴨廣繁、中野貴司（委員長）

利益相反自己申告

- ・ 青木洋介はMSD（株）、塩野義製薬（株）、ファイザー（株）から講演料を受けている。
- ・ 青木洋介は塩野義製薬（株）から奨学（奨励）寄附金を受けている。
- ・ 石田直はアストラゼネカ（株）、杏林製薬（株）から講演料を受けている。
- ・ 國島広之はMSD株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、ミヤリサン製薬株式会社より講演料を受けている。國島広之はミヤリサン製薬株式会社より研究費を受けている。

- ・ 関 雅文は、MSD 株式会社、杏林製薬株式会社、サノフィ株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、ファイザー株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、モデルナ・ジャパン株式会社から講演料を受けている。
- ・ 田村大輔はアボット ダイアグノスティクス メディカル（株）、積水メディカル（株）から研究費を受けている。
- ・ 永井英明は、MSD 株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、サノフィ株式会社、塩野義製薬株式会社、モデルナ・ジャパン株式会社から講演料を受けている。
- ・ 藤田次郎は、MSD株式会社、杏林製薬株式会社、ギリアド・サイエンシズ株式会社、塩野義製薬株式会社から講演料を受けている。
- ・ 三嶋廣繁は旭化成ファーマ株式会社、MSD株式会社、杏林製薬株式会社、ギリアド・サイエンシズ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、興和株式会社、サラヤ株式会社、塩野義製薬株式会社、住友ファーマ株式会社、第一三共株式会社、株式会社ツムラ、ニプロ株式会社、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社、ファイザー株式会社、ファイザーR&D合同会社、株式会社フコク、富士フイルム富山化学株式会社、ミヤリサン製薬株式会社、Meiji Seikaファルマ株式会社、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社より講演料を受けている。
- ・ 三嶋廣繁は杏林製薬株式会社、ファイザー株式会社、ミヤリサン製薬株式会社、Meiji Seikaファルマ株式会社、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社より研究費を受けている。
- ・ 三嶋廣繁は旭化成ファーマ株式会社、塩野義製薬株式会社、住友ファーマ株式会社、株式会社テックインターナショナル、ニプロ株式会社、株式会社フコク、富士フイルム富山化学株式会社より奨学寄付金を受けている。
- ・ 中野貴司は、KMバイオロジクス株式会社、サノフィ株式会社、第一三共株式会社、田辺三菱製薬株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、モデルナ・ジャパン株式会社から講演料を受けている。
- ・ 佐藤晶論、新庄正宜については申告すべきものなし。